

生涯学習情報紙

発行：大和村教育委員会事務局・中央公民館

第348号

2022



第1回長田須磨シンポジウムを終えて

11月5日(土)に開催された長田須磨シンポジウムは、86名の参加とオンライン視聴で59名の方が参加されました。今回の奄美に伝わる「ウリグシ織り」の実演では、生地に触れたり、織り方が体験できたりしたので好評でした。また、長田須磨氏の生い立ちについても説明があり、村公民館の長田須磨文庫の来訪者も増えそうです。



関口千佳氏の説明により、実演を行う岡本亜紀子氏

第19回大島地区生涯学習推進大会 第20回大島地区広域文化祭 (喜界大会)



11月19日(土)に喜界町で大島地区生涯学習推進大会があり、大和村からNPO法人TAMASU代表の中村修さんがシンポジストとして参加しました。内容は、まちづくりの観点としての事例で、観光事業には、集落の理解とルール作りが大切である事等を発表しました。その後今大会のテーマである「人づくり・つながりづくり・地域づくり」について意見交換を行いました。



中山昭二兄いの四方山話(よもやまぼなし)

叱咤激励

近年、小中学生のスポーツ大会は競技によっては、順位を決めない傾向がある。理由は、指導者による過度の勝利主義により、勝利に向かう激しい練習は、成長期の子どもの心身発育に良くないということが一つのこと。先日、テレビで小学生の柔道の全国大会が放送されていた。夏に行われた大会が順位を決めない大会であったために、再度、柔道連盟が順位を決める大会を開催したということであった。理由は、多くのチームから自分たちの実力が分からないという声があり、指導する先生にとっても県では優勝したが全国ではどれ程の実力があるのか知りたいということで要望を出した、ということであった。受けた主催者側の苦慮がうかがわれる。スポーツ大会ばかりではなく、近年は、学業成績も同様なことになっているらしい。

大和村では、戦中戦後の厳しい時代に今里集落から二人の村長が出ている。森山武茂氏(在任昭和15~18年)安田義保氏(在任昭和23~32年)。この二人の村長の教育に対する情熱はすばらしいものがあり、子どもを持つ親たちに「これからの時代は教育にあり。」と熱心に説いて、上の学校へ進学する子どもたちを励ました。当時は、学業の成績だけで進学出来る時代ではなく、家庭の経済問題が大きく立ちばかり、男の子が進学すると家族全員が犠牲になる覚悟が必要であった。二人の村長の叱咤激励を素直に聞き、家族の愛情を受けて、勉学に励んだ今里の子どもたちは医者・学者・弁護士、そして多くの教育関係者を生むことになった。

学業やスポーツにおいて、厳しい叱咤激励を受け、想像していた以上の成績が良かった時の喜びは何とも言えない高揚感に浸るものである。このようなことを書くと「時代が違うよ。お前の考えは古い」と言われそうである。

(参考資料・武田雄司、今里の歴史)

12月10日は世界人権デーです!

12月4日から10日までの1週間は、「世界人権宣言」が昭和23年12月10日までと国連総会で採択され、今年で74回を迎えることから国においては、「第74回人権週間」と定めています。今年の啓発目標は、『「誰か」のことじゃない』です。

